

上海日本人学校虹橋校での特色ある教育活動

前上海日本人学校虹橋校 教諭

山梨県甲府市立舞鶴小学校 教諭 岩間 美和

キーワード：現地理解、上海タイム、英語活動、特色ある教育活動

1. 中国上海の概要

中華人民共和国は1949年10月1日に建国。人口は約13億人。そのうち、92%を漢民族が占めている。残りの8%（といっても、約1億人）余りは、ほかの民族に属する人々だ。政府は、漢民族以外に55の少数民族を公認し、その各民族の主たる居住地域を「区域自治」地区に指定して、限られた範囲ではあるが自治を認めている。

上海市は面積6340.5km²に約1400万人の人々が住む中国有数の大都市である。上海市は中国最大の経済都市である。2011年の市内総生産は1兆9,196億元（約26兆円）であり、北京市を凌ぎ同国第1位である。戦前から多くの日本人が住む上海には現在約4,500社の日系企業が進出、5万289人の日本人が住み、海外で3か月以上留まって暮らす長期滞在の日本人が多い都市として、アメリカのニューヨークを抜きトップになった（2010年10月1日時点・外務省の統計）。短期滞在者を含めると10万人以上の日本人が滞在しているといわれる。

2. 上海日本人学校虹橋校の概要

(1) 学校のプロフィール

2万m²の敷地を有し、冷暖房完備の南棟（2階）、北棟（3階）、東棟（5階）、室内温水プール、2つの体育館、2つの図書室、2つのパソコン室、200mトラック、天然芝のグラウンド、駐車場等、恵まれた教育施設が整っている。2012年4月現在の児童生徒数は1,568名。世界最大規模の日本人学校である。

(2) 特色ある教育活動

①語学の授業

平成12年度から全学年で英語活動と中国語活動を週1時間ずつ取り入れ、21世紀を生きる子どもたちに必要な資質や能力、つまり「生きる力」の育成を図っている。

英語・・・低学年はネイティブスピーカーと担任とのTTによる指導を行っている。3年生以上は、少人数指導を行っている。歌やゲームなどを中心に楽しみながら英会話に親しむことをねらいとして授業を進めている。

中国語・・・両親の国籍、中国での滞在期間等から、子どもたちの中国語の会話のレベルは様々である。そこで、初級、中級1、中級2、上級と習熟度別の少人数指導を徹底している。指導は日本語ができる中国人教師によって行われている。

②上海タイム（総合的な学習の時間）

3年生以上は、総合的な学習の時間を「上海タイム」として、中国上海に関するテーマで学習を進めている。

5年生・・・中国の食文化　6年生・・・修学旅行（北京）に関する学習

③チャレンジタイム（中国文化の体験）

1年生・・・中国影絵

2年生・・・中国武術

3年生・・・京劇

4年生・・・中国雑技

5年生・・・湯圓・獅子の舞・龍の舞

6年生・・・花絵文字



2年生「中国武術」

④現地校交流

日中交流を目的に、発達段階に即した現地校との交流学习を各学年で行っている。(2011年度)

1年生・・・日新実験学校の子どもたちを迎えて、「鉄腕アトム」の歌を中国語で披露した。その後、各教室で、日本の昔遊びやゲームをしながら交流した。

2年生・・・上海小学の子どもたちを迎えて、「虹橋雑技」と運動会での表現を披露した。その後、各教室を回り、生活科「お店屋さんごっこ」をして交流した。

3年生・・・日新実験学校を訪問し、運動会での表現「八木節」を披露した。その後、各教室で手作り名刺の交換をし、チェスや折り紙や外遊びなどをして交流した。

4年生・・・日新実験学校を訪問し、「あんたがたどこさ」を一緒に歌い、その後、各教室へ移動してゲームをして交流した。

5年生・・・呉溪第三小学を訪問し、各教室で名刺交換をしてから、かるたや福笑いやおにごっこなどをして交流した。その後、校庭で運動会での表現「ソーラン節」を披露した。

6年生・・・上海市実験学校を訪問し、「さくらさくら」と「まつり花」を中国語で披露した。その後、各教室で体育や中国文化の体験を通して交流した。

⑤宿泊学習

中国の文化や伝統に直接触れる機会を設けている。

5年生・・・東方緑舟（上海市郊外のレクリエーション施設）

6年生・・・修学旅行 北京（万里の長城をはじめとする、北京にある5つの世界遺産を観光する）



世界遺産「天壇公園」

3. 上海での研修から

現地校研修

上海日本人学校では、毎年1回、上海市内にある小学校へ行って授業を見学したり、現地校の先生方と話をしたりする現地校研修が行われている。

①英語教育の充実とレベルの高さ

上海の小学校では、3年生から英語の授業を行っている。読むことはもちろん、書くこともしていた。

②教科指導

小学校では教科担任制で授業を行っている。さらに、1年生の先生は1年生、2年生の先生は2年生と、学年間の移動がほとんどないため、よく教材研究をされていて、ていねいに指導をしていた。ただ、友達同士で意見を交流するような場面はあまり見られな。授業中の私語もない。またノート指導もないようで、B5よりもっと小さい白い紙に、黒板を写していた。宿題はものすごく多く、毎日の課題をこなすだけで何時間もかかるそうだ。

③視聴覚教材の充実

天井にプロジェクターが設置され、黒板の位置にプロジェクタースクリーンが降ろせるようになっている。教師の机にはパソコンが備え付けてある。このような視聴覚機器は2002年に区内の全ての学校、教室に設置され、さらに2005年に国・算・英についての視聴覚教材ソフトが教育委員会から配布されたそうだ。

4. 上海での3年間を通して

(1) 日本人学校での仕事から

日本人学校では1年目は仕事や生活に慣れることを中心に、2年目は学校の中心になって仕事を進める、3年目は学年をまとめる仕事をするというシステムがある。一番大事なものは、毎日の授業である。日本に戻っても困らない

学力をしっかり身につけさせなければいけない。子どもたちにとっては、海外で生活をしているというだけで、勉強もがんばり、友だちとも元気いっぱい遊び、習い事もたくさんして、フルに生活を楽しんでいた。

(2) 3年間を振り返って

地元を離れ、海外で仕事をするという貴重な経験をさせてもらったことに感謝したい。3年間での一番の宝物は多くの人との出会いである。日本全国から集まった先生方、そしてそのご家族、中国人スタッフの方々にたくさんのことを教えていただいた。海外で生活し仕事をする仲間としての絆は非常に強かったように感じる。先生方の情熱や子どもへのまなざし、そして教育技術を生かしていきたい。中国国内もかなり旅行した。日本の子どもたちにも、そこで見たこと体験したことを話してあげたい。よき出会いに恵まれ、幸せな3年間を送ることができて感謝している。